

「お浄土が ナンマンダブツが あってよかったね」

医学博士・宮崎幸枝



宮崎幸枝（みやざきゆきえ）
プロフィール
東京都生まれ。東京女子医科大学卒業後、同大学小児科学教室入局。医学博士・小児科専門医・内科医であり、現在茨城県稲敷市にある医療法人精光会みやざきホスピタルの副病院長。

「みやざきホスピタル」の副病院長である宮崎先生 誰もが迎える「死」とその「救い」を真正面から語られます

診察室は本音が出てくる場所
誰もが死と対峙する時が来る

一般社会には死と正面から向き合おうとしないという風潮があるように感じます。なぜだとお考えでしょうか。

宮崎 本音で生きていないっていうことでしょうかね。生まれた時から死にたくない。皆死ぬのは怖いです。それが本音だけれど、言わないですよ。解答がないから「死なんて暗いこと言っんじゃない、明るく生きよう」って話になるんです。生死の解決がないと、死の話が出来ないですよ。でも病院に来たら、診察室の中だけは本音が出る。それは診察室ではラポール（根本的な信頼関係）があつて、患者さんは医者白衣に頼っているんですよ。でもね、医者白衣に頼ってもダメなんです。生死の解決は仏法に頼らないとダメ。私はラポールがある上で、患者さんにそうはつきり申しあげます。

死んでどこに行くかわからない
そんな不安を抱えたままで
死んでいけますか？

診察室の先生を前にして死に対する本音が出るということですか。

宮崎 そうですね。ずっと抱えてきた本音だけれど、いよいよ自分の死がもう遠くないとなった時にポロツと出てくるわけです。「まだ死ねません」とか「お迎えが来ません」と患者さんが言っていることは、その方は相当「死」と向き合っているということなんです。だから、今しか言う時がないんですよ。それを慰める場合じゃない。「死と言ったけど、死んでどこ行くつもり？」って聞く。本音で。大抵「わからない」と答える。「わからなくてどうします、そんな不安なままで、死んでいけますか？」本当のことをズバズバ言っし

かないです。その本音が意外と嫌われないんです。たぶん本当のことだからなんでしょう。

生死の解決をちゃんと聞いて
安心して臨終を迎えるということ

この前こんなことがありました。ナースが「先生、あの末期の患者さん、昨晚怖がってましたよ。」と私に言うんですよ。ナースには「死ぬの怖い」って本当の気持ちを明かすんです。「先生早く行ってお浄土の話をしてください」ってナースが催促するので、その患者さんのベッドサイドに行つて「○○さん、ビハラの会（※註）に出てる？」って尋ねたら、突然「いやだいやだ」って大きい声を出されたんです。つまり死の話なんか聞きたくないということですよ。私は話すのをためらいました。しかし、彼は今夜死ぬかもしれないと思い直し、思い切つて「阿弥陀さまって仏さまがね『必ず浄土に救うから心配するな、安心せよ』と、あなたの称えるナンマンダブツ（南無阿弥陀仏）という声となつて仰つてくださっているんですよ。私も○○さんも、もう阿弥陀さまの懐に抱かれていいんですよ」と話し始めたんです。

そしたら彼の真っ青な痩せた顔にパーッと血の気がさしたんです。そして今までの顔とは打つて変わった柔和な顔になったんです。「私が先にお浄土に参つたら後から来てね。○○さんが先にお浄土に参つたら、後から私が往きますよ。お浄土で必ずまた互いに会えますよ」と、お浄土の話ができてよかったなと思いましたがね。それから彼は夜怖がってないんです。お念仏の中に抱えられている。それでナースステーションに戻つて「話してきたよ」と言った途端、数人のナースが「ありがとうございます。よかった、よかった」って言うんです。私びっくりしたんです。ああそうだったのか、みんな生死の解決、お浄土をよるこんでくれているんだと。



浄土真宗本願寺派

患者さんが死を前にして不安と恐怖の現実があるのに見て見ぬ振りなんてできない

先生の病院では、月に一度仏教の話を聞く「ビハーラの会」をされていますね。日本にはそういう取り組みをされている病院は少ないのでしょうか。

宮崎 ビハーラ病棟（ホスピス）でも医師の側から取り組みというのは少ないですね。ましてや一般病院にそういうのはないようですよ。医療者側にとって病院は公共機関、公の所ですよ。と。宗教ってというのは公のところを持ち込んではいけません、世の中になっけていますね。しかし患者さんが死を前にして不安と恐怖の現実があるのに、それを見て見ぬ振りをして、立て前で済みます。それは無慈悲でしょう。おかしいでしょ？他力のお念仏が必要なんです。他力じゃなきゃ間に合わない。だから浄土真宗のビハーラの会をやっています。

ビハーラ活動は病院内の医師や看護師・職員さんにとどのような影響がありますか。

宮崎 まず、天国が出ていきましたね。みんな最初ね、亡くなったら天国って言うって



たんですよ。お浄土が入ってきたら天国天国って言わなくなり、お浄土って言い始めた。それであとナマンダブツね。

ソトコちゃんっていう患者さんがいるんです。ビハーラの会でも何の会でも出席して一番前で話を聞いているんですけど、その患者さんがね、ある時、私が病棟に入って行ったら「ナマンダブツ、ナマンダブツ、ナマンダブツ」って、私に手を合わせたの。私もハッとなって「ナマンダブツ」って応える。どこにいても何回でも来て「ナマンダブツ、ナマンダブツ」って。私に言いたいんですね。そうすると周りの患者さんたちがね、「ナマンダブツ、ナマンダブツ」って囁（ささや）し立ててたの。そしたらナマンダブツが流行っちゃって。ナースステーションでもお浄土とかナモアミダブツが浸透したんです。そうするとね、ナースが患者さんに「お浄土がね」なんて言ってるんですよ。

病院に宗教を持ち込むのではない人間そのものが宗教なんですか
目の前の患者さんが何宗であるか
真の仏法の上では関係ない

病院内でお浄土とか、ナマンダブツと語ることに抵抗はなかったんですか。

宮崎 ありましたよ。でも本当のことだからこれしかない。本当じゃないと言えないですよ。病院に宗教を持ち込むとかそういう話じゃなくて、人間そのものが宗教なんです。生まれてきて死ぬということは何なんだろうという、人間の持っている心の底にずっと隠してきた本音の解決をしようっていうことなんです。目の前の患者さんの家が何宗であるかということが真の仏法の上では関係ないです。ビハーラでうちの職

員はお念仏を聞き、また仏法に出遇った者のいのちを考え始めた者、色々な変化が生じてきています。でもビハーラがいくつあってもダメですよ。そこに本音がなければ。だから「この人にどう思われるのかな」「心配だな、やめとこう」って話じゃないんですね。どこでも本音で当たることじゃないでしょうか。

本当のことを伝えたい
相談する相手は世間ではなく
仏さまに真向きになってみる

先生のおっしゃる「本当のこと」とはどのようなことでしょうか。

宮崎 「念仏のみぞまことにておはします（たんに抄※註）」だから本当のこととお念仏です。南無阿弥陀仏しか本物はない。あとのことは何もかも有限の世界の中から生まれてきた言葉、人間が暮らすための言葉であって、お浄土から来てるのはナモアミダブツしかない。これしかない。今も本当のことしか言いたくないし、本当のことを伝えたい。全部本音。病院やるのも本音でいきたい。阿弥陀さまのご本願を背骨にして病院経営する。なぜなら比べる相手、相談する相手を世間ではなく、仏さまに真向きになってみようよと、これ以上のことはありません。

患者も医者も看護師も救いの中
「お浄土があつてよかった」と
よろこべる人間になれるかどうか

他力の救い、ナモアミダブツの教えしかないということでしょうか。

宮崎 医療の現場には生死の解決がことさ



ら必要なんです。もう待ったなしなんです。それで一番困っているのは「ご臨終です」と言わなきゃならない医者なんです。お浄土を知らず虚しく死を迎えると「一体この人の人生何だったんだろう」と思いますよね。他人のいのちでも「人間に生まれてこれでおしまいか」っていうことがとても虚しくて。でも、医者はその慣らされてきてますので「まあやむを得ない、この人の寿命なんだ」と思うしかないわけだけれど、そこに救いがあるんなら、どんな者も「人間に生まれてよかった」でしょ。「よかった」で終わりたいじゃないですか。お念仏とお浄土があることが聞かえたら、患者も医者も看護師も家族も皆が救われるんです。

死んで行くことの解決は白衣にしがみついても出てきません。僧侶に聞きなさい。本当に白衣からは何の解決も出てきませんよ。人間に生まれてきたことの解決は仏法の中にある。それを聞くことが大切です。そして「お浄土があつてよかったな」とよろこべる人間になれるかどうかです。「お浄土なんかあるかないか、わからない」っていう人生の先には、お浄土はありません。お浄土があるという人生の先に、お浄土がありません。決して虚しく終わっていく人生ではない。「よかった、よかった」とよろこべる人間として人生を終わるべきです。

※「ビハーラ」(Vihara) は、サンスクリット語。「精舎・僧院」「身心の安らぎ・くつろぎ」「休息の場所」が原意。浄土真宗本願寺派では「ビハーラ活動」として、1987(昭和62)年から仏教・医療・福祉の専門家がチームを作り、医療現場で支援を求めている人々を孤独や不安のなかに置き去りにしないよう活動を続けている。
※『歎異抄』著者は親鸞聖人の直弟、河和田の唯円と考えられている。師の教えと異なった教義を嘆き、それを正すために親鸞聖人から聞いた言葉を抜き出して書かれたもの。

この広告に対するご感想をお聞かせください。宛先は下記へ。



本願寺山口別院

浄土真宗本願寺派山口教区教務所 〒754-0022 山口市小郡花園町3-7
Tel083-973-4111 Fax083-973-4631 <http://yamaguchibetsuin.net>